四十八回蒼天句会　今月の一句

令和八年十月八日　兼題：木の実、又は自由

くぬぎの実ころころ自由持て余し　公子
風に散り木の実の旅の始まりぬ　婦紗子
どちらかな木の実握る手みぎひだり　賢一
嫁ぐ娘に言葉短し木の実降る　繁一
身に沁むや紅葉マークの軽車両　孝志
校長の訓辞も昨夜の野分かな　洋一
秋草のゆれる故郷始発駅　信江
濡れ窓の落書きなぞる夜長かな　静江
晩節や素風と歩く高野山　鎭夫
雨上る寺の境内木の実降る　国祥
新走りボージョレヌーボー如く如し　隆彦
初母の胸はふくよか豊の秋　重子
小流れの向かう明るし檀の実　朱美
草陰にひっそり咲ける思草　紹子
老猫にお腹の薬木の実雨　晴代
水嵩の減りたる川辺木の実降る　久恵